

6月定例会で党議員団が後ろ向きの市を追及 子どもの医療費助成を18歳まで拡大せよ

宇治市「効果は限定的」と拡充を拒否

子どもの医療費助成を18歳まで拡充する自治体が広がっています。

子育て支援の強化のためにも、医療費助成の18歳までの拡充は宇治市でも必要です。

6月定例会の一般質問で党議員は、18歳までの医療費助成の拡充を求めましたが、市は「高校生年齢への拡充については、子育て世帯の負担軽減効果は限定的」として「対象年齢の拡大は行わない」と答弁しています。

高校生でも医療費負担は重いと追及

市は「負担軽減効果は限定的」としている根拠として、厚生労働省が毎年発表している国民医療費の概要に基づいて、20代前半までは年齢が上がるにつれて医療費の額が下がる傾向があり、中学生年齢と比較して、高校生年齢の医療費が低くなる傾向をあげています。

党議員は、京都府の資料で国民健康保険の1人あたりの医療費は、「中学生年代より高校生年代の方が高い傾向にある」と追及。

2021年の京都府の資料では中学生が入院外で1人あたり77,631円の医療費だったのが、高校生では78,538円となっており、市の「医療費の額が下がる」「負担軽減効果が限定的」との考えは間違っています。

しかし市は答弁で、宇治市としては厚生労働省の毎年の数値を根拠としていると答えるだけで、京都府の資料にはふれず、まともな答弁をおこないませんでした。

自治体で広がる18歳までの医療費助成

党議員は、「2014年に18歳までの医療

費助成をおこなっていた自治体が201だったのが、2021年には817自治体に600自治体以上増えている」と指摘。

また、京都府の医療費助成制度が、通院の医療費助成を3歳まで実質無料としていたものを、今年9月から12歳まで実質無料に拡充するも、京都府の制度に上乘せをして、中学校卒業まで実質無料としていた自治体の多くが、高校卒業までの医療費無料化に足を踏み出しています。

党議員は「周辺自治体も次々と制度の見直しを進める中、宇治市だけが取り残されないように早急に制度の充実をするべき」と市を追及しました。

18歳までの医療費助成をおこなう京都府の自治体

京丹後市	大学生まで助成制度あり
福知山市	今年度から高校生の入院を無料に
南丹市	すでに入院・通院が高校生まで無料
亀岡市	今年度から高校生通院・入院無料化
長岡京市	今年度から高校生の入院を無料に
八幡市	今年度から高校生通院・入院無料化
向日市	今年度から高校生の入院を無料に
京田辺市	今年度から高校生通院・入院無料化
京丹波町	昨年度から高校生入院・通院無料化
大山崎町	今年度から高校生入院・通院無料化
久御山町	今年度から高校生通院も無料化 (入院はすでに無料)
井手町	すでに入院・通院が高校生まで無料
和束町	すでに入院・通院が高校生まで無料
南山城村	すでに入院・通院が高校生まで無料

**日本共産党
宇治市会議員団**

議員団だより2023年7月30日号
宇治市宇治琵琶33 宇治市役所内
TEL: 0774-22-3141 FAX: 0774-24-7884

ご意見・ご相談の
アンケートフォーム
はこちら →

